

5月30日 教育子ども委員会 岡田ゆき子議員

図書館の運営を派遣会社にまる投げ 「名古屋の文化は効率優先」でいいのか

5月30日の教育子ども委員会において、「図書館の今後のあり方について」と、請願1件が審議されました。

市民の図書館を民間のもうけの対象に

教育委員会からは、市内支所管内の6つの図書館から司書をはじめとする市職員を引き上げ、民間業者に運営をまる投げする方針が説明されました。

図書館は、貸出業務だけでなく、読み聞かせをはじめとした様々な事業、資料の収集から分類・整備、図書館資料の利用相談など、司書が専門的な業務を継続的に担うことによってこそ、利用者に役立つサービスを提供できます。そしてこれらを無料で提供することが定められている施設です。

教育委員会は、図書選定や学校などでの館外事業を区の図書館で行い、窓口業務や読み聞かせなどの館内事業、施設の管理を民間業者（指定管理者）に任せると言っています。

他会派も、慎重に検討すべきだ

支所管内の図書館に区の図書館から司書が週二回くらいでかけて運営するというが、岡田議員は「地域にそれぞれ特徴のある資料もある。館によって傾向も違う。図書選択一つとっても、きめ細かいサービスができなくなる」などとただしました。教育委員会は「鶴舞中央図書館などと協力しあって選定する」と答えました。岡田議員は各支所の図書館が地域の運動でつくられてきた経緯もふくめ、コスト削減が目的であれば官製ワーキングプアをつくるだけだと批判し、もっと市民の声を聞くよう求めました。

図書館協議会で3月に来年・さ来年で指定管理にしたいと説明し、いろいろ議論もされたが、引き続

き協議するという事です。コスト低下が賃金低下などにつながるなどが心配されています。次の図書館協議会は6月20日に行われることも明らかにされました。

受託できる業者は、全国的には1社、人材派遣業者などでは6社くらいあるということでしたが、他党の議員からも「開館日や開館時間の増加など、自分たちの努力でできることはまだまだある。経費削減も努力不足だ」などの声が出され、「利用者の声をもっと聞け」という声がありました。教育委員会はまだ決まったことではないから利用者には聞いていない。これから説明して聞きたい」という回答がありました。

妊婦健診拡充の請願は保留

「妊婦健診の受診費用に対する補助の拡充等を求める請願」が請願者からの口頭陳情をうけて審議を行いました。岡田議員は、エコーは4回までの助成になっているが実際はほぼ毎回行っていること、14回というけれど、母子手帳の交付を受けるのが遅くて12回程度しか受けていない例もあることを明らかにして、助成の拡充や産後検診の補助を求めました。また、今年度で国の交付金が終了する予定になっていることについて、国の交付の有無で助成が左右されないよう強く求めました。市は、国に要望し実施継続したい、と答えました。

産後検診は半田市、刈谷市、安城市、常滑市、江南市、知多市、知立市、阿久比町、飛鳥村など県内19市町村で実施されています。

教育子ども委員会（2011年5月30日）での請願の結果

請願名	請願内容	結果
妊婦健診の受診費用に対する補助の拡充等を求める請願	1 妊婦健診の助成費用を引き上げ、産後検診1回分を無料とする	保留
	2 妊婦健診の重要性を、妊婦や一般市民及び事業主に周知徹底する	趣旨実現・打切り